

H2020のプライオリティ②産業界のリーダーシップ確保

- 実現技術・産業技術におけるリーダーシップ 約179億ユーロ
 - ICT、ナノテク、材料、バイオテクノロジー、先進製造、宇宙を中心とした産業競争力の確保
 - 産学連携の枠組みであるJTI(ジョイント・テクノロジー・イニシアチブ)に対する220億ユーロの投資
 - 革新的な医薬(IMI2)、燃料電池(FCH2)、CO2削減(CS2)、バイオベースの再生可能資源を用いた産業構築(BBI)、電子機器受託製造システム(ECSEL)という5つのプロジェクトを推進
- リスクファイナンスへのアクセス
 - 約35億ユーロを充当
- SMEの支援
 - 初期ステージのリスクが高い段階でのサポートを推進
 - SBIRモデル(FS: 少額資金提供、R&D: 本提供、商業化: 貸付、エクイティ・ファイナンス等)に倣う

H2020のプライオリティ③社会的な課題への取り組み

■ 6つの社会的課題を抽出

約317億ユーロ

- ①保健、人口構造の変化および福祉
- ②食糧安全保障、持続可能な農業およびバイオエコノミー等
- ③安全かつクリーンで、効率的なエネルギー
- ④スマート、環境配慮型かつ統合された輸送
- ⑤気候への対処、資源効率および原材料
- ⑥包括的、イノベーティブかつ安全な社会の構築

■ 各課題に対する取り組み

□ FP7のCooperationに属していたプログラムの一部を、この枠組みで実施

□ その他の部分の取り組みについては、現時点では不明

→プログラムの詳細は2年ごとに練られるため、全容はすぐにはわからない可能性がある

H2020とICT(別の角度から見たプライオリティ)

■ ICTはH2020における重点項目

- ICTへの投資額は、FP7に比べて46%増加
- ICTは他の分野のインフラ的役割(FETはICTに限らないが、FET FlagshipsはICT分野のプロジェクトとして出現)

■ ICT分野の重点項目

- 新世代システム(ナノエレクトロニクスやフォトリソ技術を含む)
- 次世代コンピューティング
- 次世代インターネットに向けたインフラ、技術、サービス
- コンテンツ・テクノロジー、情報マネジメント(デジタルコンテンツのためのICTを含む)
- 先進インターフェイス・ロボット、ロボティクス・スマート空間
→FETs(次世代技術)について、DG-CNECTを中心に調査

H2020の基本的な運営方針

- イノベーションに向けたシームレスなサポート
 - 基礎研究段階から技術開発段階までのファンディングルールの統一（評価項目の統一＋段階に応じた重みづけ、など）
 - 一つの主体が研究の複数段階で支援を受けられる可能性
 - 貸付や株式購入ベースでのイノベーション支援
- 他の枠組みやルールとの整合性の確保
 - 従来のFP7、CIP、JTI等に一貫したルールの提供
 - 他の、あるいは将来のファンディングプログラムとの整合性
- 参加者に資するルールの単純化
 - 構造的な単純化（参加資格、IPRルールの原則的統一）
 - ファンディングの単純化（直接経費は100%or70%、間接経費は20%など）
 - 管理戦略の改善（財務諸表への認証および監査の軽減等）

H2020の項目別予算

項目	金額(€M)
卓越した科学	24,598
内訳(抄) ERC	13,268
FETs	3,100
欧州研究インフラ	2,478
産業界のリーダーシップ確保	17,938
内訳(抄) 産業技術開発でのリーダーシップ	13,781
SMEsのイノベーション	619
社会的課題への取り組み	31,748
欧州工科院研究所(EIT)	2,800
合同研究センター(JRC)(原子力を除く)	1,962
欧州原子力共同体(EURATOM)	1,665
合計	79,271(発表時現在)

出典: Breakdown of the Horizon 2020 Budget

(http://ec.europa.eu/research/horizon2020/pdf/press/horizon_2020_budget_constant_2011.pdf)

H2020の国際戦略

■ 基本方針

- 欧州の研究・イノベーション、経済・産業競争力の向上に資する
- 世界共通の社会的課題に取り組む
- 欧州の対外政策を支える

■ 連携対象の3分類

- ①先進国及び成長国(特定の条件下で可)→中国・ブラジル・メキシコへの資金提供は今後不可に
- ②近隣諸国、③途上国(EUからの資金提供可)

■ 共同研究開始に向けたステップ

- 連携対象の強み弱みを整理したマトリクスの作成(DG-RTDで研究開発・イノベーション力を計る指標を開発中)
- 連携可能分野の絞り込みとロードマップの作成

■ ERCの国際連携の例

- NSFの若手研究者をERCに採用された研究チームに参加させる協定の締結(2012年)